

新年あけまして おめでとうございます。



株式会社MANIX
代表取締役社長 松田 幸治

旧年中の格別のご高配に心から感謝申し上げます。
皆様にとって2014年が実りある年となりますことを心よりお祈りしますとともに、
より一層のご支援、ご協力を賜りますよう、従業員一同心よりお願い申し上げます。

2013年を終えて

昨年の日本は政治の世界で大きな動きがありました。それに連動する形で経済の世界にも大きな動きがあり、我々の関わる業界にも影響を与える年となりました。当面はこの動きが穏やかになることはなく、激しいまま進んでいくことになるのではないかと考えます。昨年に決定した本年4月に控える消費税の増税には国民全体の関心が寄せられています。そして消費税に関しては最終10%まで引き上げられる状況にあります。政治と経済は国や地域を動かす両輪であることを前提に考えると、先行して動きのあった政治に経済が追従できるかという観点になりますが、消費者心理も大きく上振れしGDPも上昇している状況を見ると、良い方向に向かっていくようにも感じます。これが消費税増税を控えた短期的な状態になるのではなく、長期的な発展へと繋がる経済政策による効果であってほしいと願います。また、消費税増税への準備として私たちが身を置く業界にも「すまい給付金制度」や住宅に関連する税制の拡充、特定リフォーム減税の拡充など、様々な政策が打ち出されました。本年のこの業界に大きな影響を与える消費税増税とその他の税制度。これからの動向に目を向け、有益な情報をいち早くキャッチしていきたいものです。

業界のトレンド

増改の時代といわれて長い年月が経過していますが、依然として「環境」「省エネ」を加えた「増改(Reform)」時代であることに変わりはありません。この三つの要素に関わる新しい商品が次々と開発され、市場に出てきているのが現実です。また、「増改(Reform)」という言葉は我々の業界においては住宅やマンションという住まいに目

が行きがちですが、言葉の意味からすればそれだけではありません。ビルやマンションの配管リニューアルや本管の改修工事、公共施設、商業施設の改修工事、メンテナンス工事なども立派な「増改(Reform)」にあたります。最近では「Renovation」という言葉が大規模改修工事で使われるようになりました。本年も「Re」(意味:この文章では[再生]の意味合いが近い)を伴うキーワードが数多く出てくることとなります。私たちが主軸とする住まいの「Re」foamを中心に様々な分野で生まれてくる「Re」に目を向け、お得意先様の得意分野で「Re」を伴う事業に目を向けていただけたらと思います。

最後に

本年も変化の激しい年となります。変化の激しい時こそ会社組織としての真の成長があると捉えています。組織を支えるのはいつの時代も人であり、人の成長が組織を成長させることへ繋がります。人の成長は経験を積むことにあり、それは成功した経験にも失敗した経験にも、そのどちらにも必ずや人を成長させることに繋がります。社員一同多くの経験を積み一人ひとりが成長し、これからも皆さまのお役に立てる人が集う会社となれるよう本年も日々精進してまいります。

2014年も変わらぬお付き合いをお願い申し上げますと共に、多くの経験を積む機会をご提供いただき、ご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

